

第4学年 国語科学習指導案

日 時 令和7年9月19日（金）第5校時

13:25～14:10

対 象 第4学年1組 30名

学校名 墨田区立第一寺島小学校

授業者

会 場 4階 4年1組教室

令和7年度 研究主題 学びを深める児童の育成 ～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

1 単元名 「じ～ん」とくる物語を読んで、「思いのとびら」で全校児童に紹介しよう

教材名 『ごんぎつね』（光村図書 4年下）

並行読書：おすすめの本を紹介できるように、夏休み中に読書活動を推進。

以下のポイントを意識したおすすめの本のリストを配布。

【おすすめの本を探すポイント】

- ・場面のうつりかわりがよく分かるお話
- ・登場人物の気持ちがよく分かるお話
- ・「じ～ん」とくるお話

※全員が読書に取り組めるように上記の5冊程度をロイロノートに配布

（例）並行読書教材『泣いた赤鬼』（浜田廣介）『おこんじょうり』（さねとうあきら）

『おにたのぼうし』（あまんきみこ）『しあわせの王子』（オスカー・ワイルド）

『なめとこ山の熊』（宮沢賢治）

2 単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕（1）オ
- ・「じ～ん」とくる物語をすすんで読み、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力・判断力・表現力等〕C（1）エ
- ・「じ～ん」とくる物語をすすんで読み、登場人物の気持ちの変化について、「思いのとびら」で全校児童に紹介しようとするすることができる。〔学びに向かう力・人間性等〕

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。（1）オ	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 C（1）エ	登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。

4 児童の実態

- ・4年生で学習した物語文「白いぼうし」の学習では、全文シートを使い、不思議なところを解き明かすために交流活動を繰り返し行った。進んで交流活動を行う姿が見られたが、マトリックス表を見て交流する友達を決めるのではなく、話をしやすい友達と交流してしまったり、自分と異なる視点で考えを解き明かしたりすることに課題が感じられた。
- ・4年生で学習した物語文「一つの花」の学習では、心に残った箇所を全文シートに付箋で貼り、それを見て交流する友達を決めて繰り返し交流を行い、考えを明確にすることができた。交流活動の中で、叙述を基に自分の考えを述べることに困難さを感じる児童がいた。

5 教材について

本教材は、多くの場面が「ごん」の視点で書かれている。そのため「ごん」の気持ちが捉えやすく、思いに寄り添いながら読み進められる物語である。また、「ごん」と「兵十」の気持ちの変化も場面の移り変わりや情景描写と結び付けて想像しやすい。友達と交流する中で、登場人物の気持ちの変化を読み取り、「思いのとびら」にまとめて紹介し合う。

並行読書教材の作品は、登場人物の境遇や性格、気持ちの変化が描かれている作品を複数提示した。また、夏休み中に幅広く読書ができるように「おすすめの本」のリストを配布した。児童が複数の本の中から紹介したい本を選び、印象に残った叙述に着目し、その叙述を選んだ理由や想像したことを交流し、自分の考えを「思いのとびら」にまとめる。

登場人物の気持ちを読み取りやすい本を並行読書教材として提示する。マトリックス表を活用して話す相手を選び、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて何度も交流することで、指導事項C（1）エの学習に結び付くと考えた。また、複数の並行読書材を提示することにより、子供たちが登場人物の伝えなかった思いを友達に伝えたいという意欲を高めることができるようにした。

6 研究主題との関連

（1）目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

（2）研究主題に迫るための手立て

①言語活動の工夫

ア 言語活動

物語のじーんとくるところやそのわけを登場人物の気持ちの変化を手掛かりに明らかにして、「思いのとびら」にまとめて紹介し合う。

イ 言語活動の特徴

本単元では、登場人物の境遇や性格、気持ちの変化が描かれている作品を複数読み、印象に残った叙述に着目し、その叙述を選んだ理由や想像したことを「思いのとびら」にまとめて紹介し合うこと

を位置づけた。「思いのとびら」には、「登場人物の紹介」「物語のあらすじ」「じ～ん」とくるところとそのわけを書く。特に「じ～ん」とくるところとそのわけを表現する際には、主人公の気持ちの変化を手掛かりにして明らかにできるようにしていく。

登場人物の気持ちの変化を文章から想像しやすい本を並行読書教材として複数提示し、マトリックス表を活用して話す相手を選ぶ。登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて何度も交流を繰り返すことで、指導事項C(1)エの活動に結び付くと考えた。

ウ 言語活動モデル

外側

題名

物語のあらすじ

内側

- ・登場人物の紹介コーナー
- ・想像した登場人物の性格

「じ～ん」とくるところとそのわけ

わたしはあかねこ

～登場人物のしょうかい～

じふんのあけを死にしている

じふんだけあかねこ

5人きつだい

きょうだい・いしねこ・くうねこ・とらねこ・ふちねこ

あじさんばくうねこ

ふめだんはしうねこ

ものがたり物語のあらすじ

真白なしろねこのあさんと、真くうなくうねことうさんからうまれたのがあかねこ。兄弟は、しろねこ、くうねこ、とらねこ、ふちねこ、みんな白と黒でねこらしいもよう。あかねこだけ赤い色をしているから、みんなあかねこのことをバカにしている。

でも、あかねこは自分の色をすきだと思ってい

る。あかねこは、家を出て、あおねこくんと出会

い

わたし「じ～ん」とくるところは、やさしいみんなはだいきさだけど、わたしらしさをわかてくれないのはかなしい」といふところだ。

あかねこは、さい初の場面では、いきなりかわいこのいうがすき」と言っていたのに、家族がいろんな方法であかねこの色が変わるように試すので、同じがいいのかな？と考えます。でも、みんなが分がてくれないと感じたあかねこは、家を飛び出すことにしました。家を出てから、家族のことを思い出すとさびしくなった時もあったけれど、最後にあかねこんと出会った時、あかねこのことを生みます。あかねこは、やっぱり自分はそのままでよかったと感じたと思うので、「じ～ん」ときました。

わたしも、自分らしさを大切にしたいと思いました。

「じ～ん」とくるところとそのわけ

②交流活動の特徴

ア 相手と目的を意識した交流活動の設定

本単元では、自分が気になった言葉や文を友達と交流して考え、「じ〜ん」とくるところとそのわけを「思いのとびら」に表すことで、本の魅力について伝える活動を設定した。子供たちは、「じ〜ん」とくるところとそのわけを交流することで、場面の移り変わりによる登場人物の気持ちの変化や性格、情景、物語の展開など、様々な本の魅力に気付くと考えた。また、同じ物語を読んで「じ〜ん」と感じたところが違うと気が付いたり、同じところを「じ〜ん」と感じて、その理由が違うことに気が付いたりするなど、今までの自分の感じ方と友達の感じ方を比べて読むことができると考える。

イ 交流の進め方をつかむためのモデル動画の作成

自分が気になった言葉や文について、友達と交流することによって、自分が考えたことがより明確にすることができる考えた。今までの実践で、子供たちが思いや考えをもっているが、うまく交流できないということがあった。そのため、交流のモデル動画を作成し、交流の目的や方法を明確にしたり、具体的に提示したりする。

- ・子供たちがどのような交流をすれば、当該単元で育てたい資質・能力を発揮した交流になるのか、指導事項と関連させて考える。
- ・どのような手順で交流を進めるのか、持ち物や席の座り方、返答の仕方などを具体的に提示した。
- ・交流しているときの、全文シートの使い方、線の引き方など、複数の叙述を比較したり、複数の作品を参考にしたりして考えを明確にする手順を示す。

ウ 主体的に交流に参加するために

児童が交流する相手は、隣の席の友達というような機械的に決められた相手ではなく、一人一人が自ら目的をもって主体的に決めることとした。交流する場面では、次のような手立てで相手を自分で選べるようにした。教科書教材の場合は、全文シートを黒板に掲示し、子供たち一人一人が、気になるところや紹介の根拠となる言葉や文に付箋を貼る。これにより、本文と付箋を頼りに自分が交流相手を探せるようにする。また、並行読書材の場合は、マトリックス表を用いて、同じ教材同士であれば、どんなところに「じ〜ん」とくるのかとそのわけを聞くことで、より自分の考えをはっきりさせたり、違う読書教材同士では、自分の考えが伝わるかを試したりするなどの目的をもって、自分で相手を選んで主体的に交流ができるようにする。

7 単元の指導計画と評価計画（10 時間扱い）

次	時	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準
第一次	1	「じ～ん」とくる物語を読んで『思いのとびら』をつくるために、どのように学習を進めたらよいのかについて話し合おう。 ・物語文を読んで、教師自身が「じ～ん」とした物語の読み聞かせと紹介を聞き、「じ～ん」とくる物語を読んで「思いのとびら」で全校児童に紹介しよう」という課題をもつ。 ・並行読書をして、気に入った本を見付ける。	【思考・技能・表現力】 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (全文シート、思いのとびら) 【知識・技能】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(発言) 【主体的に取り組む態度】 登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って伝え合おうとしている。 (発言、思いのとびら)
	2	～ごんぎつね～ 物語を紹介することに向けて「ごんぎつね」のあらすじをカードに書こう。 ・『ごんぎつね』を読み、「じ～ん」とくるところを探しながら、内容の大体を読む。 ・物語のあらすじをまとめる。 ・並行読書を選び、読み進めておく。	
	3	～ごんぎつね～ 「ごんぎつね」のじ～んとくるところを選びながら、登場人物の性格を想像してカードに書こう。 ・登場人物の性格を「思いのとびら」にまとめる。	
	4・5	～ごんぎつね～ 「じ～ん」とくるところとそのわけを交流しよう。 ・気になったところを見付け、全文シートに自分の名前を書いた付箋を貼る。 ・交流するためのモデル動画を見て、交流の仕方を知る。 ・「ごんぎつね」を読み、「じ～ん」とくるところとそのわけを全文シートで交流する。 ・交流したことをもとに「思いのとびら」のじ～んとくるところとそのわけをカードにまとめる。	
	6	～ごんぎつね～ 「思いのとびら」を紹介しよう。 ・「ごんぎつね」で作成した「思いのとびら」を紹介し合う。	
	7	～並行読書教材～ 物語を紹介することに向けて並行読書教材のあらすじをカードに書こう。 ・並行読書教材を読み、「じ～ん」とくるところを探しながら、内容の大体を読む。 ・物語のあらすじをまとめる。	
第二次	8	～並行読書教材～ 並行読書教材のじ～んとくるところを選びながら、登場人物の性格を想像してカードに書こう。 ・登場人物の性格を「思いのとびら」にまとめる。	

	9 ・ 10 (本時)	～並行読書教材～ 「じ～ん」とくるところとそのわけを交流しよう。 ・気になったところを見付け、本（タブレット）に自分の名前を書いた付箋を貼る。 ・交流するためのモデル動画を見て、交流の仕方を確かめる。 ・並行読書教材を読み、「じ～ん」とくるところとそのわけを本（タブレット）で交流する。 ・交流したことをもとに「思いのとびら」のじ～んとくるところとそのわけをカードにまとめる。	
事後		～並行読書教材～ 作成した「思いのとびら」を図書室に置き、全校児童に見てもらうようにする。 ・「思いのとびら」を全校児童の友達に見てもらえるように、本と一緒に図書室に置く。	

8 本時（全 10 時間中の第 10 時間目）

（1）本時の目標

物語の「じ〜ん」とくるところを場面の移り変わりと結び付けて想像したり、登場人物の気持ちの変化などを手掛かりにしたりして、「じ〜ん」とくるわけを書きまとめることができる。

（2）本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1 単元のゴールを確認する。 2 前時までの学習を振り返る 3 本時のめあてを確認する。	・「思いのとびら」のモデルと学習計画表を振り返り、単元のゴールを確認する。 ・全文シートやマトリックス表、交流活動で学習してきたことを確認する。 ・交流のモデル動画を見て、流れを確認する。	
	「じ〜ん」とくるところとそのわけを交流し、「思いのとびら」の「じ〜ん」としたわけ」を書こう。		
展開 1 (30分)	4 「じ〜ん」とくるところとそのわけを明らかにするために、友達と交流する。	・並行読書マトリックスを基に、相手を選んで交流するように促す。 ・マトリックスを用いる際には、「まだ自信がないから同じ作品を読んでいる子と交流してわけをはっきりさせたい」「もう自信が付いたからこのお話を読んでいない子と交流して、じ〜んとかくるところを伝えたい」など、複数の判断例を示し、意図をもって交流相手を選べるようにする。 ・モデル動画で確認したように、ページをめくりながら、場面と場面とを結び付けて話し合うようにする。 ・「じ〜ん」とくるわけを説明している児童のうち、複数の場面を結び付けている児童を認めていく。 ・交流が停滞しているグループには、教師が 3 人目のメンバーとして交流に加わり、場面の移り変わりと登場人物の気持ちの変化を結び付けて説明ができるように促す。	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。・・・C (1) エ 【A 規 準】 「じ〜ん」とくるわけを、ページをめくりながら「最初は・・・だったのに、ここでは・・・」などと説明しながら登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景を複数の場面と叙述と結び付けて、説明することができる。 【B 規 準】 「じ〜ん」とくるわけをページをめくって登場人物の気持ちの変化や登場人物の性格、情景と結び付けて説明することができる。 【B 基準に達しない児童への手だて】 教師が 3 人目のメンバーとして交流に加わり、ジーンとしたわけを、「他のページにも書いていない

